

JILS

のウマい使い方

物流企業におけるJILSの活用事例

JILSの講座を受講して 会社が変わりました



株式会社ハンナ
代表取締役 下村由加里様

ロジスティクスの 視野が広がったのは 受講がきっかけ

—ハンナ様は「三方善し」という理念を掲げていらっしゃいます。

当社は1980年に父が設立した運送会社です。その原点が「三方善し」。荷主、経営、(従業員の)家族のすべてが幸せになることを意識しています。この思いを持ちつつ、私が3代目の社長となってからは、持続可能な会社であること、社員の生活を守ること、ワークライフバランスを実現することを一番の課題に掲げています。

経営理念

私たちは、企業の発展を軸とし、
お互いの物心両面の幸せを追求します。

私たちは、日々進化する企業づくりと
品質向上に努め、社会的責任を果たします。

私たちは、環境に配慮して、社会に貢献する
輸送サービス業を目指します。

—物流技術管理士資格認定講座の受講が
JILS入会のきっかけだそうですね。

創業者の娘ということで社長として引っ張り出されましたが、経営者としては未熟。セミナーに行くなど自分なりに経営を学んだものの、会社として持続し続けるための事業計画を立てるといふ大事なことを学ぶ場所がなく困っていました。そんなとき息子がお世話になっている富士運輸さんが、JILSには物流技術管理士資格認定講座があると教えてくださったのです。富士運輸さんでは管理者は全員この資格を持ち、すばらしい経営をされている。それで私自身が2016年度にこの講座を受講しました。

講座には様々な企業分野から、様々な役職・立場・年齢の人が参加しています。これまで関わることのなかったメーカーの方や、同業でも大手企業の方などと一緒に受講し、それぞれの立場の課題を聞くことができました。それによって当社はロジスティクスという大きな仕組みの中で、調達物流といった大事なポイントを担っているとハッキリと認識でき、私の事業計画の中身が大きく変化。感覚的なものから現実的な計画に変わり、社員たちも高いモチベーションで取り組めるように変わりました。

今では課長以上は全員、物流技術管理士資格認定講座の受講をルール化しているのですが、そうしたらロジスティクスの標準用語が社内ですべて使われるようになったのです。そして社員一人ひとりが、それぞれの能力に合わせたKPIを設定するように変えたところ、社員が「自分は会社に必要とされている!」と実感できるようになりました。その結果、離職率の低下につながっています。

様々な立場の人と 意見交換できる それが何よりありがたい

——JILSの他のプログラムもご活用くださっています。

2017年度は関西ロジスティクス研究会に参加しました。ロジスティクスで今起こっている問題が取り上げられ、ゲスト講師にもいろいろ質問できて本当に有意義でした。しかもこの研究会ではOB・OGともつながれるのです。毎年参加したいくらいでしたが、私が独り占めしてはいけないので、2018年度からは社員が順番に参加しています。

代わりに私自身はロジスティクス経営士資格認定講座にチャレンジしました。すると、ここでも大きな学びが得られたのです。現場と管理者と経営者では、目指しているものが根本的に異なると認識できたこともその1つ。ひと口に「荷主の要望」と言っても、層によって内容は異なります。だったらそれを叶えるために、当社も現場、管理者、経営者と層別の会議体を設けて対応していこうと。そして会議を定例化したところ、意思決定が早くなり、物事が効率的に進むようになりました。

また、この講座では、物流のことを考えている経営者の方々は、私と同じ悩みや課題を持っているということも分かりました。例えば配送時の待ち時間の長さ、ルート効率化や積載率向上といったこと。それを知れたことで、これからの可能性につなげていけると感じました。

さらに東京で開催されているロジスティクスシステム研究会にも参加しました。ここでは今自分がやろうとしていることが、立場が変わるとどう見えるのか、率直な意見交換ができます。こうした貴重な場があることをとてもありがたいと思っています。

真に働く環境の整った 社員一人ひとりが 活躍する会社へ

——今年は新卒の方が入社されたそうですね。

そうなんです。当社が取り組んでいる健康経営に関心を示してくれました。安定した経営を行うには、社員が目標を持ち、イキイキと働けることが大切。そのためには社員が健康でなけれ

ばなりません。この考え方が若い人に「自分を必要としてくれる、自分が活躍できる会社」との共感につながったようです。

健康経営の取り組みは、総務や事務の社員たちが進めてくれています。現場の人たちがロジスティクスを学び、業務に活かす姿を見て、「自分たちに何ができるか」と考え、「社員の健康を促進しよう」とチャレンジしてくれたのです。その結果、喫煙者やメタボの対象者が減少しています。これもJILSの講座を受けて事業計画に落とし込めた成果ですね。

運送業は長い間、荷物に合わせて車両と人をそろえる時代が続きましたが、これからは人の力に合わせて車両と荷物を作る時代になると思います。私は社員の力を伸ばし、その力をしっかりと把握した上で、自分たちに合わせた荷物や仕事を取り込んでいきたい。一人ひとりのワークライフバランスを考えた仕事作りを大事にしたいと考えています。

これからもJILSをどんどん活用しなら経営理念を実現していきたいです。

ハンナ様が活用している JILSのプログラム

物流技術管理士資格認定講座

物流管理者・技術者に不可欠な専門知識とマネジメント技術を体系的に学ぶ講座。講義、事例紹介、演習を通じて学んだ知識と技法を、実務へ展開する実践力を身につけます。

ロジスティクス経営士資格認定講座

「ロジスティクス経営幹部」を育成するための専門講座。ロジスティクスの役割を経営の視点から捉え、各機能を総合的にデザインし、戦略立案、事業・サービスの企画実行、ロジスティクス改革などを実践する力を養います。

ロジスティクスシステム研究会

SCMの進化、ロジスティクスによる価値創造を目指す研究会。メンバーの関心事を取り上げ、各社のケーススタディ、先端事例の研究、討議を通して、問題発見と解決のヒントを掴む場となっています。

関西ロジスティクス研究会

ゲスト講師による講演、先進企業の物流施設見学、研究会メンバーによる事例発表などを通じ、ロジスティクスならびに物流現場における課題など、経営面から実務面まで率直な情報交換を行います。

会社概要 株式会社ハンナ

本社所在地
——奈良県奈良市
設立年月
——1980年10月
事業内容
——一般貨物自動車運送事業、
貨物利用運送、通過型倉庫、
車両整備
従業員数
——107名(2019年7月現在)

改善活動のモチベーション

全日本物流改善事例大会は

荷主企業におけるJILSの活用事例



株式会社カスミ
ロジスティック本部 物流部 物流戦略担当マネジャー(兼)
ビジネス変革室 ビジネスリモデル担当
齋藤雅之様

協力会社を巻き込む 仕掛けをつくり 現場改善を根付かせる

——カスミ様はJILSの全日本物流改善事例大会の常連企業です。2010年からほぼ毎年出場し、物流合理化賞も何度も受賞されています。

カスミは北関東を中心にスーパーマーケットを展開しています。人の生活を支えるインフラとして、地域の生活を守ることがミッションです。TC/DCの3つの流通センターを持ち、構内・配送業務を地元の物流会社4社に委託しています。そうした中で2004年に改善活動を全社的に導入。業務委託している協力会社とカスミ物流部のメンバーで改善チームをつくり、トヨタの「カイゼン」に習い、活動をスタートさせました。

——改善活動が企業文化として根付いた成功要因は何ですか。

物流現場である協力会社を巻き込んで進めてきたことが大きいですね。企画部署が机上で考えたことを伝えるだけでは、現場は動きません。どうしたら動くかといえば、人と人のコミュニケーション。つまり一緒に考え、一緒に進める

以外にありません。そこで両者で構成するチームをつくることで、ともに様々な現場の課題解決にチャレンジしてきました。

協力会社も参加して行われる週1回の「改善委員会」と、半年に1回の「現場報告会」は、今も続いています。チーム数は14あり、これまでの改善件数は350にのぼります。地道に継続してきたことで、改善活動は企業文化になりました。——齋藤様自身も当初は協力会社のご所属でした。その中で全日本物流改善事例大会に出場されました。

2013年にカスミに転籍するまで、岩瀬流通センターの業務を請け負う三共貨物自動車に所属し、カスミとともに「カイゼン」を学び、センターの改善活動に携わってきました。スタート当初は、各改善チームに配置されたカスミの社員が活動を引っ張りましたが、次第に現場である協力会社の人たちが主体となって動かせるようになってきた。そういう中で「全日本物流改善事例大会に出よう」との話がカスミからあり、当時、岩瀬流通センターのセンター長だった私も何度か発表させてもらいました。

思い出深い取り組みの1つに「地域優先雇用制度」があります。岩瀬流通センターは市街地にあり、周りは住宅です。24時間稼働となると近隣から苦情が出かねない。それなら近所の人に働いてもらい苦情が起きないようにしようと、年齢・性別に関係なく、センターから近い順に採用する制度を設けたのです。週1回2時間からOKという働きやすさも相まって、豊富な人材が得られ、お互いの“WIN”とすることができました。

現場が自主的に連携する それが強さと継続の秘訣

——現場改善のおもしろさは、どんな点にありますか。

改善活動の醍醐味は、縦割りの組織を乗り越えて連携できることですね。物流現場は前後工程の異常が顕在化する場所。「改善」をキーワードにすると、それがなぜ問題なのか、従来の内部統制と違い、失敗を恐れずに現場主導で関連部署や前後工程に一步踏み込んでいける。WINが循環する仕組みさえ作れば、業務命令などなくても自主的に連携するようになるのです。

こんな事例があります。店舗配送ドライバー



(株)カスミおよび協力会社による改善報告大会。半年に1度開催され、写真はその30回記念大会の様子

と構内作業者の連携による商品の積み方改善です。構内作業を効率化するために仕分け作業者の生産性を評価したところ、スピードだけを優先し、荷崩れにつながる積み方をしている人が出てきて、結果的に積み直しを行うドライバーの負担が増えてしまった。そこでドライバーはまずい積み方を発見したら、作業を止めてでも作業者に積み直しをさせることにしました。その際、ドライバーが教師となり「なぜこの積み方はまずいのか。どう積めば荷崩れしないか」をOJTで実施。それによりドライバーの積み込み時間が短縮され、また作業者との良好な関係も醸成されました。

こうした自主的な連携が当たり前になれば、日本の物流はものすごくよい方向に変わっていくのではないかと私は思います。

働く人に光をあてる 全日本はうってつけの 舞台装置

——改善活動のモチベーションはどこから生まれているのでしょうか。

現場が目に見える形で効率化し、気持ちよく働けるようになることは、間違いなくモチベーションとなっています。さらに当社の場合、全日本物流改善事例大会に出場するという大きな目標があります。物流現場で働く人たちは様々な経歴を持ち、それぞれにアイデアの種を持っていたりする。ポテンシャルが

あるので、スポットライトをあてるとみんな活躍し始めます。ですから全日本の存在はとても励みになるのです。現場をよりよくしようというたくさんの仲間と出会ったり、自分たちの立ち位置を客観的に見られたりするのにも全日本の魅力。JILSの制度を利用しながら、これからも現場が主役の物流改善を盛り上げていこうと思います。

会社概要 株式会社カスミ

本社所在地
——茨城県つくば市
設立年月
——1961年6月
事業内容
——食品、家庭用品、衣料品等の小売販売を行う
スーパーマーケット事業
店舗数
——188店舗(2019年3月末現在)

全日本物流改善事例大会でのカスミ様と協力会社の受賞歴 (所属・役職は受賞当時)

2010年	物流合理化賞	「カスミ中貫DC 出荷量のジャストインタイム化による保管在庫物量の抑制」 SBSグループ ティーエルロジコム 北関東営業部 土浦支店 主任 大槻直紀
	物流合理化努力賞	「仕分けミスの削減と組織改革(チルド構内編)」 三共貨物自動車 カスミ岩瀬流通センター センター長 齋藤雅之
2011年	物流合理化賞	「関連部署との3つの連携 ~3PLの役割とは…~」 三共貨物自動車 カスミ岩瀬流通センター センター長 齋藤雅之
	物流合理化努力賞	「納品台車管理システムの構築による事務所作業時間の短縮」 SBSグループ ティーエルロジコム 北関東営業部 土浦支店 主任 大槻直紀
2012年	物流合理化賞	「離職率の削減と組織改革 ~WINの循環型改善推進とは…」 三共貨物自動車 カスミ岩瀬流通センター センター長 齋藤雅之
2014年	物流合理化賞	「機械だけに頼らない人間力による作業改善」 飯塚運輸 チルド構内 構内課長 豊岡真人
	物流合理化努力賞	「事務による改善推進『カスミ事務大部屋化方式』とは…」 カスミ 営業推進ロジスティック部 物流 担当マネジャー 齋藤雅之
2018年	物流合理化努力賞	「カスミ事務大部屋化方式 ~無くせないか・減らせないか・ 変われないかをキーワードにした事務視点の真因改善~」 カスミ ロジスティック本部 物流部 物流課長 赤津茂美

ご入会をお待ちしております!

日本ロジスティクスシステム協会(JILS)の会員企業は、製造業、物流業、流通業などで構成されております。ロジスティクスに積極的に取り組む各業種・業界の代表的な企業が参加し、情報交流、情報収集、そしてビジネスチャンス拡大など様々なシーンに活用されています。この機会にぜひご入会をご検討ください。

Q 入会の具体的な特典は?

- 各地新春交流会、総会、研究会など交流の場への参加
 - 機関誌の無料配布(年間4回発行/1口3冊)
 - 各種情報サービス(メールマガジン、冊子等)
 - 当協会主催展示会の出展料優遇・入場券の無料配布
 - 教育プログラム、各種講座、協会主催イベントの参加割引
- 例えば、物流技術管理士資格認定講座受講料は…
会員 450,000円/1名 会員外 550,000円/1名
※受講料は税抜き価格です。
※受講料は2019年8月時点のものであり、変更となることがあります。

Q 会員の種別は? 会員になるための費用は?

	正会員(法人)	正会員(個人)
入会金	¥10,000	¥10,000
年会費	¥120,000	¥30,000

※正会員(法人)年会費は、1口の場合。講座、イベント等の事業利用の際、その法人会員企業に所属する社員全員に会員割引が適用されます。

事業案内・入会申込書のご請求はコチラまで customer@logistics.or.jp

